

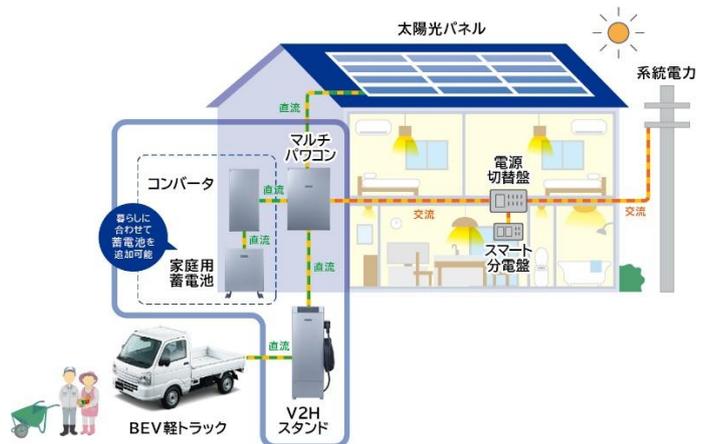
2026年3月17日

エリーパワー製バッテリーとV2H蓄電システムを活用した BEV軽トラックの実証実験、農家と共同で開始

エリーパワー株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役会長兼 CEO：吉田博一、以下 当社）は、スズキ株式会社（本社：静岡県浜松市、代表取締役社長：鈴木俊宏、以下 スズキ）が取り組む BEV 軽トラック（※1）の実証実験にパートナー企業として参加しています。2026年2月より、静岡県浜松市、静岡県湖西市、愛知県豊川市、熊本県阿蘇郡の農家と共同で、実証実験を開始しました。



実証実験の様子



例：太陽光発電+V2H蓄電システム+BEV軽トラックの使用イメージ

■BEV軽トラックの実証実験とは

スズキが農業を営むユーザーに、軽トラック「キャリイ」をベースに製作した電気自動車と V2H^(※2)機能を搭載した蓄電システムを一定期間貸し出し、使用していただく実証実験。BEV軽トラックの潜在需要の検証、BEV軽トラックにおける太陽光発電エネルギーのベスト利用の方法を探ることが目的です。

・スズキ公式リリース

<https://www.suzuki.co.jp/release/d/2026/0317a/>

<https://www.suzuki.co.jp/release/d/2025/0425/>

■当社供給アイテム

- ・ BEV 軽トラックの駆動用バッテリー：定置用大型リチウムイオン電池「HY バッテリー L シリーズ」
- ・ V2H 蓄電システム：「POWER iE Connect」（パワーイエ・コネクト）

■定置用大型リチウムイオン電池「HY バッテリー L シリーズ」を活用した駆動用バッテリー



今回の実証実験では、「HY バッテリー L シリーズ」をベースに新たに BEV 軽トラックに搭載の駆動用バッテリーとして改良を加えた製品を搭載しています。V2H 蓄電システムには、通常製品が搭載されており、同様の電池を用途にあわせて適する形にカスタマイズし採用しています。これは、スズキが掲げる過剰にバッテリーを搭載しない「バッテリーリッチな電動車」の実現に資する取り組みであります。

■定置用大型リチウムイオン電池「HY バッテリー L シリーズ」の特徴

1. 使用頻度が高くてもへたらない「長寿命」

バッテリーは充放電を繰り返すごとに蓄電可能な容量が減少していきますが、当バッテリーは住宅や公共施設などで使用することを想定して開発・製造されており、電池材料や構造の最適化等により、15 年繰り返しフル充放電(約 17,000 回)を行っても電池容量保持率 70%という長寿命が特長で 10 年単位の使用に耐えうる品質を実現しています。

2. 創業以来、電池起因事故ゼロの実績が誇る「高安全性」

当社は 2006 年の創業以来「地震や災害の多い日本で安心して使用するには、どんな性能が必要か」という発想でバッテリーを開発・製造しており、出荷台数累計 10 万 7 千台^(※3)を超える全ての蓄電池において、バッテリー起因事故が起こったことはありません。火災事故がニュースに取り上げられることもある定置用蓄電池分野において、安全性は最優先すべき事項であり、ショートしても押し(おし)潰しても過充電しても熱暴走のリスクがなく、発煙・発火しない HY バッテリーであれば、安心してご使用頂けます。

■V2H 蓄電システム「POWER iE Connect」(パワーイエ・コネクト)の特徴



1. 太陽光発電の自家消費促進

太陽光で発電した電気を蓄電池と BEV・PHV に同時充電可能。蓄電池からも EV・PHV に充電可能で、時間帯を気にせず、クリーンな太陽光発電の有効活用が可能です。

2. 蓄電池でも BEV・PHV でも自宅をバックアップ

V2H スタンド経由で BEV から自宅に電気を供給することができ、蓄電池に加え BEV・PHV からバックアップ可能なため、災害などによる停電時自宅でも電気が使えて安心です。

■コンセプトは「動く蓄電池」約 1 年間の実証実験で BEV 軽トラックのバッテリーおよび V2H システムの活用方法を検証

農家での軽トラックの使用目的は、農地までの移動手段がメインであることが多く、「作業時間中に動かすことが少ない」「作業後は翌日まで宅内で駐車することが多い」という仮説を元に、長い駐車時間の活用方法に着目してコンセプトが考えられました。V2H 蓄電システムと連携することで、蓄電池として使用できるため、駐車時間も有効に活用することができます。また 1 回の走行距離も長くないことから、駆動用として定置用バッテリーを選択することができ、「動く蓄電池=BEV 軽トラック」という今までにないコンセプトが誕生しました。

今回の実証実験では、BEV 軽トラックを実際の農作業現場や日常生活で使用いただくとともに、V2H 蓄電システムを活用し、BEV の軽トラックのバッテリーに蓄えた電気を自宅で使用するほか、一部の農家では自宅の蓄電池から BEV 軽トラックへの充電も行います。

実際に農家のご自宅でも活用いただいた声とともに、搭載しているバッテリーの稼働状況や V2H システムの利用データを取得し、実用化にむけた検証を行うことで、新たなバッテリーの可能性を探り、製品・電池開発に活かしていくことを検討していきます。

※1: BEV (Battery Electric Vehicle) バッテリーのみを動力源として電気自動車を走行させることを意味します。

※2: V2H (ビークル・ツー・ホーム) Vehicle (車) to Home (家) の略で、BEV やプラグインハイブリッド車 (PHV) のバッテリーの電気を住宅で使用したり、住宅の蓄電池から BEV や PHV に充電することができるシステムの総称です。

※3: 2025 年 12 月末時点

■お問い合わせ先 エリーパワー株式会社 <https://www.eliypower.co.jp>

〒141-0032 東京都品川区大崎 1-6-4 新大崎勸業ビルディング 19 階

事業内容: 大型リチウムイオン電池および蓄電システムの開発、製造、販売

報道関係

電話番号

03-6431-9047 (広報部) / 090-5962-8564 (広報部渡邊)

お問い合わせフォーム <https://www.eliypower.co.jp/contact/coverage>

製品に関して

電話番号

03-6431-9044 (本社営業部)

お問い合わせフォーム

<https://www.eliypower.co.jp/contact/product>